

筑波技術大学 特別篇

大学のトップが語る
いま必要な力と学び

INTERVIEW
石原 保志 学長

国や地域の期待を担う
教育と研究に優れた国立大学

朝日新聞出版 AERA MOOK
『就職力で選ぶ大学2023』
(2022年8月31日発売)に広告掲載



障害を自信に変える教育と支援で 専門スキルを持った学生を社会に送る

少人数教育で徹底した 障害学生に伝わる教育

本学は日本で唯一の障害者（聴覚障害者、視覚障害者）のための大学です。

本学には聴覚障害系の学生が学ぶ「産業技術学部」と視覚障害系の学生が学ぶ「保健科学部」があります。産業技術学部では情報、建築、機械、デザインとの学問を通して、保健科学部では情報、鍼灸、理学の学問を通して、絶えず変化する社会に

柔軟に対応できる高度専門職業人材を育成しています。

近年、他大学でも障害学生の支援を行っていますが、他大学が、情報を補う「障害学生支援」としているのに対して、本学は、学生の潜在能力を引き出し、知の基盤となる情報を意図的に付加するといった「教育的支援」を行っています。

例えば、他大学では聴覚障害学生に対してはノートテイク（音声を書き起こす）、視覚障害学生には、移動支援や拡

大資料の配布に留まりますが、本学では1クラス10名以下の少人数体制で、教員自身が手話を

使いながら明瞭な音声で話し（聴覚障害系）、点字資料、スクリーンリーダーを活用しながら図表については話しことばによる説明を加え（視覚障害系）、各学生の障害の程度やコミュニケーション特性に配慮した「理解を促す授業」を行っています。

環境との関連で障害を捉え、 社会で活躍する能力を育てる

障害者が、周囲の人々に対し、障害を含めた自分自身のことを説明し環境を改善する能力を「セルフアドボカシースキル」と言います。自分の障害をカバーするには何が必要か、それを周りに伝える能力です。本学ではそうした能力を養い、さまざまな状況に適応できる人材の育成を目指しています。

在学中に社会との関わりを持つことも重要です。本学では、



天久保キャンパス校舎棟

多くの大学と連携した学生及び障害学生支援者のネットワークを形成し、他大学学生との交流を推進しています。また企業、鉄道（つくばエクスプレス）、自治体（つくば市）と連携し、障害者や高齢者等に配慮した社会環境づくりに学生が貢献しています。さらに国際交流（短期研修等）を通じたグローバルな視野の育成にも力を入れていきます。卒業生の評価は良好で、高い就職率に結びついています。

学生一人ひとりの特性に合わせた教育と、同じ障害を有する学生との交流、そして学外での体験活動を通して、広い視野と自信を持って、卒業後に、社会の中で自分らしい生き方をしていってほしいと願っています。

国や地域の期待を担う

教育と研究に優れた 国立大学



春日キャンパス校舎棟

筑波技術大学

少人数による専門教育と徹底した支援で 障害者を自立させる教育を行う

本学は日本で唯一の聴覚障害者と視覚障害者のための大学です。他学になくして学生自らが考え行動しているための幅広い教養と高い専門性を実践型教育で授けること、そして専門技術を持ち自らの障害を伝えるコミュニケーションスキルを高めることができると人材を育てることです。

学生は聴覚障害者が対象の「産業技術学部」、視覚障害者が対象の「保健科学部」で学びます。

産業技術学部は2学科で構成され、情報、建築、機械、デザイン、支援技術を学び障害者の視点でダイバーシティ社会の実現を目指します。就職先は大手企業、自治体などです。保健科学部も2学科で構成され、保健科学の学生は、はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師、理学療法士などの国家資格を取得して、医療施設などに就職

します。情報システム学科は情報処理技術者試験といった国家資格などを取得し、就職しています。

キャリア教育と就職支援が 手厚く安心して社会進出できる

4年間を通してキャリア教育を行います。その目的の一つは自分の障害を深く理解し、それを他者に説明する能力を身に付けることです。就職先に自分を生かすためにはどのような支援や配慮が必要なのかということとを遠慮せずに明確に説明し、障害を理解してもらうことが大切なのです。

就職支援では個別にその内容



ロチェスター工科大学(米国)の学生との交流。

を深めていきます。就職担当教員は学生一人ひとりの専門性や障害の特性、プロフィールをすべて把握した上で、企業の実情や学生の要望に合った就

活サポートをこなさけています。一方、障害者の雇用を検討する企業には説明会、個別の相談会を設け、障害者雇用への理解を深めるためにさまざまな疑問に答えています。そして長期にわたり企業との良好な関係を築いていくことを重視しています。

学生向けには年間数十社の企業による説明会を開催。企業と出会う機会と

なっている他、一部説明会は学生が自分の制作物や研究成果を提示し、アピールできる場になっています。また、インターンシップは企業にとり「障害者が働ける環境なのか」を知る機会であり、学生にとっても「働くための支援が受けられるか」という不安を解消させる好機になっており、毎年3〜4年生の約4分の3の学生が体験しています。

こうした個別対応を重視した就職支援により、企業・学生の双方の「顔」がよく見える安心のマッチングが可能になっています。本学では教員一人当たりの学生数は約3人と、障害者対象

の大学であることから学生の支援はかなり手厚くなっています。企業での採用経験のあるキャリアサポーターや、学生一人ひとりに付くアカデミックアドバイザー教員が、社会に出る学生を全面的に支援します。

社会で活躍するために障害者として 必要なITリテラシーを身につける

通常のITリテラシーを大学で身につけるのはもちろんのことですが、聴覚・視覚障害者にとって、最新のIT技術を駆使して自分に適したコミュニケーション支援の方法を構築・提案・調整できる力がとても重要となります。専門教育と障害者として必要なITリテラシーにより、単に就職するだけでなく、変革を続ける社会を生き抜き、活躍できる力を身につけることを目指しています。



ブラインドサッカーやデフスポーツなどのスポーツ活動が盛んです。

また、本学では、キャリアアップを目指す卒業生をサポートするリカレント教育にも力を入れています。卒業生・保護者・企業からの就労に関する相談も随時受け付けており、卒業後も聴覚・視覚障害者の就労支援を継続すると共に、生涯にわたる学びを支援します。



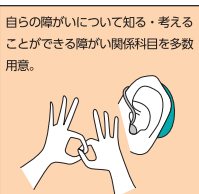
先端的コミュニケーション支援や情報保障を体験し、自ら研究・開発。



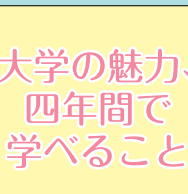
国際交流で培う世界の障害学生とのネットワーク、交流、体験。



学生の状態に併せ、使いやすいスクリーンリーダーや画面拡大ソフトをインストール。



自らがいについて知る・考えることができる障がい関係科目を多数用意。



大学の魅力、四年間で学べること



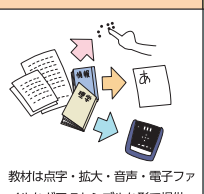
世界レベルの視覚障害者スポーツ。障害に対応したきめ細かなスポーツ指導。



充実した手話指導、聴覚管理・補聴相談、発音・コミュニケーション指導。



ブライバシーと共同生活のバランスの取れた安心して過ごせる学生生活。



教材は点字・拡大・音声・電子ファイルなどアクセシブルな形で提供。